337-9
ニ4485

# 女子音樂教科書

## 教師用

## 卷之一

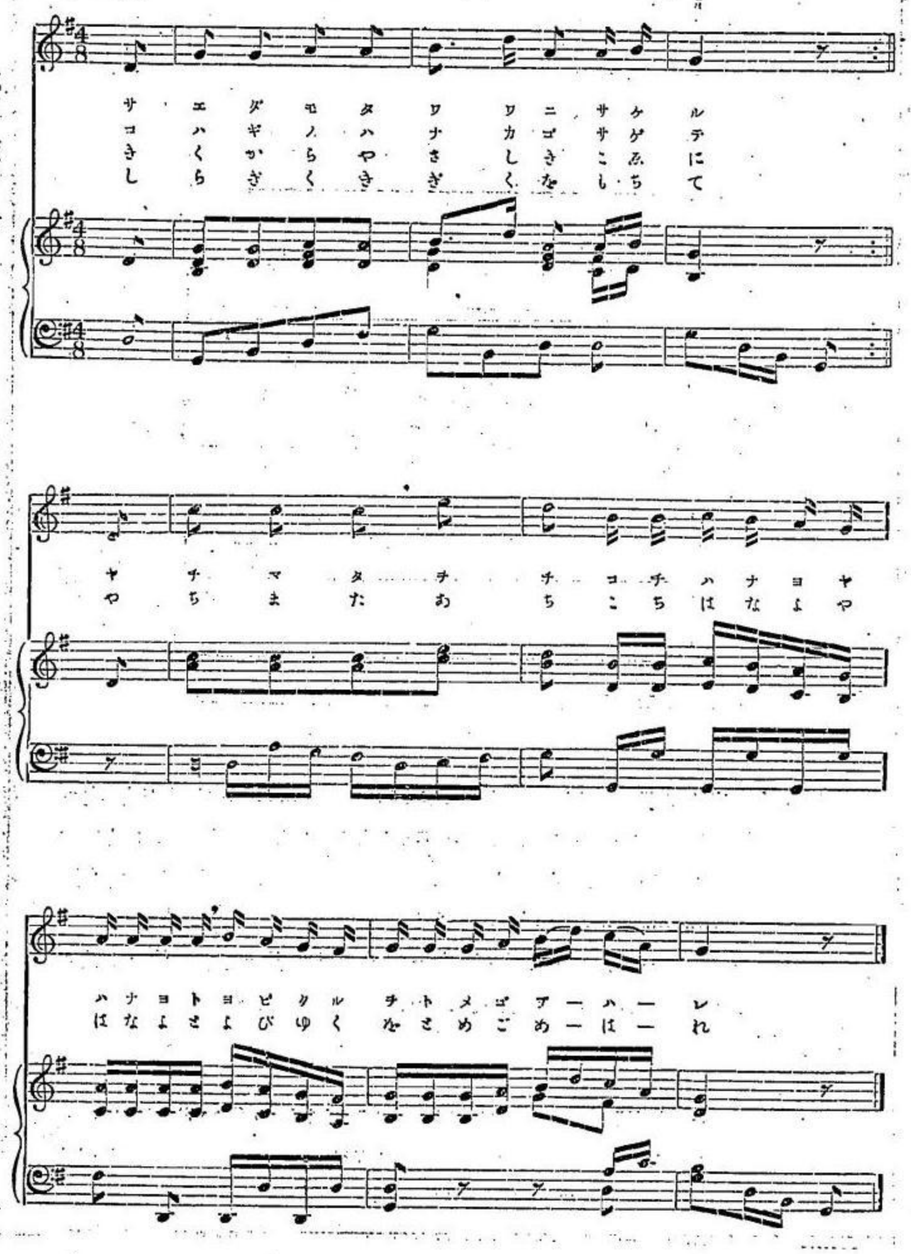
永井幸次
田中銀之助
共編

開成館藏版
大阪

44. 1. 28

# 花　賣　女

♪ = 132.



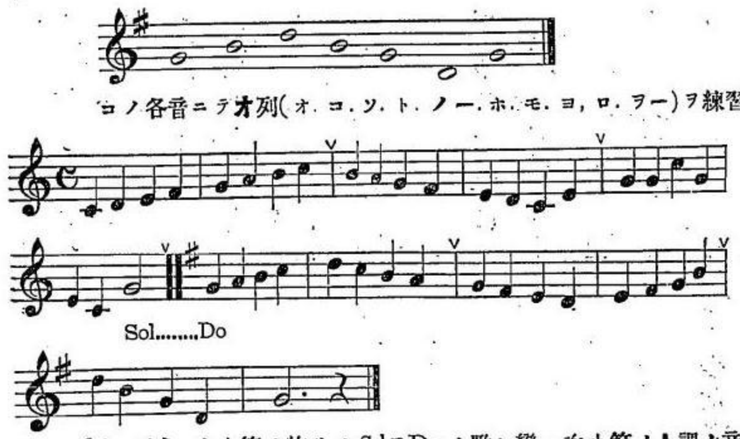





# 花　賣　女

## 一　基本教練

1. 聲音練習母音




コノ各音ニテオ列(オ.コ.ソ.ト.ノー.ホ.モ.ヨ,ロ.ヲー)ヲ練習ス.

〔注　意〕六小節ノ終リノ SolヲDo ト歌ヒ變ヘ次小節ノ**ト**調ノ音階ヲ歌ハシムベシ.

## 二　教授摘要

1. 「さける」ノ詞ヲ附シタル十六分音符ハ恰モスタッカット(圓點)ノ心持チニ輕ク歌ハシムルヲ可トス.
2. 「をちこち」ノ「を」ノ字ヲ嵌メタル音符ハ弱聲部ナレバ弱ク發聲セシメ.「ち」ノ字ヲ嵌メタル音符ハ强聲部ノトコロナレバ.充分ニアクセントヲ附セシムルヲ要ス.
3. 最終ノ「あはれ」ハスラーヲ附シタル如ク圓滑ニ歌ヒ如何ニモ「あはれ」ナル感情ヲ發現セシムルコト肝要ナリトス.
4. 其他十六分音符ノ連續ハ皆生徒ノ口形即チ下脣ノ開閉ヲ敏活ニ運動セシムルコトニ注意シ.强聲部.中强部ニハ皆アクセントヲ附シ他ハ輕ク且ツ鮮明ニ恰モ玉ノ轉々トシテ轉ブガ如ク歌ハシメ.固ク平タキ聲ニナラザル樣特ニ注意スルコトヲ要ス.

# 谷間の流

山口重樹

一、しぐれを誘へる　山あらしに
　もみぢ葉ちりこむ　谷間のながれ
　岩かむ水の音　さやかにきこゆ」

二、みよみよ谷間を　ながるゝ水を
　野を過ぎ里經て　千尋の海の
　逆まく涙となり　雲をも衝くよ」

語釋（第一章）

「しぐれ」ハ時雨、秋冬ノ頃度々降ル雨。

「さやかに聞ゆ」ハツキリト聞エテアルトイフノ意。

大意

時雨ヲ誘ッテ來テ降ラス山ノ風ニ、紅葉ガ散リ込ム谷間ノ流、ソノ水ノ音ガ、岩ニ噛ミ付クヤウニアタッテ、ハツキリト聞エテイル。實ニ心地ガヨイコトデアル。

語釋（第二章）

「千尋の海」唯深イ海トイフノ意。

大意

見ヨ見ヨ谷間ヲ流レル水ヲ。ソノ水ハイクツモ野ヲ過ギ里ヲ經テ、果テハ深イ海ノ逆卷程ノ大涙トナッテ、雲ヲモ衝クヤウニナルノデアル。

〔附言〕

少事モ強レバ大事トナル。日々ノ勉強モ積レバ終ニ立派ナル人トナル。困難ナル事ニテモ挑マズ風セズ務ムレバ何事デモ終ニハ成効スルモノデアル等ノ事ヲ説話シテ訓戒スベシ。





# 花賣ヘ女

犬童球溪

一、さ枝もたわゝに咲ける
　小萩の花籠さげて
　やちまた をちこち
　花よや 花よと
　呼び來る少女子 あはれ」

二、聞くからやさしき聲に
　白菊黄菊をもちて
　やちまた あちこち
　花よや 花よと
　呼びゆく少女子 あはれ」

語釋

「さ枝」ノさハ接頭語ニテ意味ナシ。唯枝ノコト。

「たわゝに」トハ撓ム程ニノ意。即チ枝モ撓ム程ニ。

「小萩」ノ小モ接頭語。

「やちまた」八衢ト書キテ、道ノ諸方ヘ分レテアル處。

「をちこち」遠近ノコト、アチラコチラニ同ジ。

大意（第一章）

枝モ撓ム程ニ咲イテアル萩ノ花籠提ゲテ、諸方ヘ分レテアル道ノアチラコチラヲ、花ヲ召セ花ヲ召セト賣リ歩リク若イ娘子、愛ラシク不憐ニ感セラレル。

大意（第二章）

聞クニツイテモ優シキ聲ニ、白菊黄菊ヲ持ッテ、諸方ヘ分レテアル道ノアチラコチラヲ花ヲ召セ花ヲ召セト賣リアリク。小サナ娘子、愛ラシク不憐ニ感セラレル。

〔附言〕

同情ノ念ヲ喚起シ。其レト同時ニ此ノ不憐ナル少女子ニ比較スルト自分等ハ幸福ナルモノデアル、一生懸命ニ勉強セヤバナラヌト云フ感念ヲ與フルコト肝要ナルベシ。

明治四十四年一月十五日印刷
明治四十四年一月廿五日發行

女子音樂教科書教師用卷一
定價金壹圓弍拾錢

編纂者　永井幸次
編纂者　田中銀之助
發行者　大阪市東區北久寶寺町四丁目百六番屋敷　三木佐助
印刷者　神戸市元町一丁目二十四番屋敷　菅間德次郎
印刷所　神戸市元町一丁目二十四番屋敷　福音印刷合資會社神戸支店
發賣所　大阪市心齋橋通北久寶寺町角　大阪開成館
振替貯金大阪七九番

不許復製